



安心を形作る手の技術

—「住む人すべて」に伝える・届く 「防火指導」



福島県いわき市内郷女性消防クラブ
会長 遠藤 和子

1 内郷女性消防クラブ について

私たちの住むいわき市内郷地区は、平安時代の風情を今に伝える国宝の白水阿弥陀堂や常磐炭田などの歴史的遺産のある地域です。

「内郷女性消防クラブ」は、昭和62年に前身の「下綴婦人消防クラブ」として発足し、現在は、防災士9名、防災手話講習修了者14名、民生委員14名を含む計61名のメンバーで構成され、地域全体の防災教育に力を入れています。

なお、総務省消防庁から今までの取り組みが評価され、令和6年度「防災まちづくり大賞」の総務大臣賞を受賞しました。

2 主な取り組み

主な活動として、有事の際の避難所開設の支援に加え、地域の高齢者宅への定期的な訪問や住宅用火災警報器の設置・更新の促進、防災講習会を開催するなどしています。

また、火災予防運動期間中には、地域の幼年消防クラブと合同で防火パレードを実施。防火教室として『カンカン君の火遊び』とい

うオリジナルの防火人形劇の上演、創作防災かぞえ歌お手玉遊びの上演など、高齢者から幼児まで幅広い年齢層に対する地域の防火・防災活動を実施しています。

3 新たな取り組み

①手話による防災指導

当クラブには、聴覚障害を持つ女性消防クラブ員が在籍しております。このクラブ員が中心となり、手話の講習会を実施しています。実際に災害があった場合、避難所で困っている方（ろうあ者）に対応できるようにしたいという思いからです。聴覚障害の方たちにも手話でコミュニケーションがとれる、安心できる避難所が開設できるよう、地区内の避難所には必ず手話ができるクラブ員を配置する考えです。

この取り組みのために、『防災手話の講習会』と銘打ち1年を通して複数回開催することを毎年実施しています。市内各地区で手話ができるクラブ員を養成し、災害弱者（ろうあ者）の手助けになれば幸いと思っています。



オリジナル人形劇「カンカン君の火遊び」



防災手話講習会

②外国人に対する防災指導

いわき市内に居住する外国人留学生や外国人技能実習生に対し、国際交流協会と連携し、外国人向けに日本の伝統文化である互いに助け合う「共助の精神」を核とした防災教育を展開しています。

具体的な内容は、日本の伝統文化である水引の制作をとおして、共助の精神を伝えることです。水引には、人と人とを結びつける「絆」や、「魔除け（災害除け）」といった意味があり、私たちは、これを、『絆防災水引』と名付けています。

そのほかには、防災ハザードマップを活用し、自分たちが住む場所のどこに危険が潜んでいるのか？有事の際は、どこに避難するのか？などを学習してもらいました。

さらに、避難の際、必要なものをあらかじめまとめておく「非常持ち出し袋」の重要性や、避難所で役立つ古新聞を用いた応急スリッパの作り方を発信しました。



外国人に対する防災指導

4 行政機関との連携

市の総合防災訓練では、「HUG（避難所運営ゲーム）」の指導者として参加し、非常持ち出し袋の必要性など、地域住民に「命を守る・災害に備える」啓発ができるようになりました。

消防署との連携では、一般社団法人

全国機器協会で実施している『住警器等の配布モデル事業』へ令和5年に申請し、採択されたことから、地区内の高齢者世帯に住宅用火災警報器の配付を行いました。この事業では、消防署、地区の区長、消防団と連携して、地区内を一軒一軒巡回し、住民に女性消防クラブの存在を知ってもらうことができました。

その際、女性消防団員との連携も深めることもでき、今後の女性消防クラブ員と女性消防団員の連携をもイメージすることができました。

5 おわりに

女性消防クラブ活動はボランティアであり、災害発生時の救助活動は行えませんが、かつての炭鉱町の「一山一家」の精神で、『向こう三軒両隣の隣保共助体制を更に強化する』ことを目的としています。

女性消防クラブ員の中には、民生児童委員や社会福祉協議会の職員も在籍しています。そういった方のネットワークも利用し、これからも、ご近所の顔の見える関係、また、女性の視点を活かした活動を目標の一つに設定しています。

これからも、可能な限り、地域の構成団体として積極的に他団体と連携し、地域防災力の向上を目指します！



地区各種団体と合同で実施した高齢者家庭調査